

【審議会議事に関する「男女が共に生きるまち八王子プラン（第３次）」における市の「評価」へのご意見】

1 頁

●めざす姿１：男女平等意識を確立し、あらゆる分野で男女が参画できる社会

【男女平等の意識づくりをすすめ、性別や年代にかかわらずだれもが個性や能力を十分に発揮し、あらゆる分野に男女が参画できる社会をめざします。】

ご意見欄１：市が示した「評価」に対するご意見

重点課題１ 男女平等と男女共同参画の意識づくり

指標		平成 24 年度 (策定当初)	平成 29 年度 (中間)	現状値（最終） (令和 5 年度)	目標値	評価	評価に関する 市の考え	ご意見 (市の評価は妥当、妥当でないなど)
1	学校教育の場において「男女平等である」と思う人の割合	66.7% (※１)	66.8% (※２)	53.8% (※３)	80%	C	平成 24 年度と 29 年度にあまり変化がなく現状値もこれまでよりも低くなっているため	妥当 【妥当ではない】 66.8%から 53.8%の低下は数字的には大きいのでD評価も考えられる。
2	性別による固定的な役割分担に「反対・どちらかといえば反対」と思う人の割合	47.6% (※１)	55.1% (※２)	75.7% (※４)	70%	B	平成 24 年度から順調に進展し現状値が目標値に達しているため	妥当 【妥当ではない】 A評価でも良いように思われる。

※１ 男女共同参画に関する市民意識・実態調査（平成 24 年度）

※２ 男女共同参画に関する市民意識・実態調査（平成 29 年度）

※３ 「八王子未来デザイン 2040」の運用に関する市民アンケート調査（令和 5 年度）

※４ LINE により実施した男女共同参画に関するアンケート調査（令和 6 年 6 月）

【評価（妥当）に関するご意見】

(指標 1)

- ・ 評価は厳しいように感じられた。調査の規模が大きくなればなるほど、その評価に揺れが観察される割合は高まり、結果として厳しいものになる傾向がある。
- ・ 次世代を担う子どもたちに対して、学校教育の現場における男女共同参画の意識啓発は重要であり、目標値を目指す市の評価については妥当である。
- ・ 教育の場の定義が広いが、調査により数値の妥当性を把握することができた。

(指標 2)

- ・ 現状値は目標値を超えているので A としたいところであるが、調査の内容から男性回答者が女性回答者の半分であることを考慮し、市の評価は妥当である。
- ・ 自分が感じるイメージと近似値である。

ご意見欄１：市が示した「評価」に対するご意見

重点課題２　あらゆる分野への男女共同参画の推進								
指標		平成 24 年度 （策定当初）	平成 29 年度 （中間）	現状値（最終） （令和 5 年度）	目標値	評価	評価に関する 市の考え	ご意見 （市の評価は妥当、妥当でないなど）
3	市が設置する附属機関等における女性の割合	28.1％（※）	33.8％（※）	32.9％（※）	50％	C	当初からは緩やかに進展しているが、目標値を大きく下回っているため	妥当
4	市の女性管理職の割合	－	13.0％（※） 平成 30 年 4 月	13.3％（※） 令和 6 年 4 月	30％	C	平成 2 9 年度から横ばいで目標値を大きく下回っているため	妥当 【妥当ではない】 目標値を大きく下回り、横ばいなのでD評価も考えられる。

※ 当該年度ごとに男女共同参画課が庁内関係所管に調査

【評価（妥当）に関するご意見】
（指標 3）

- ・ 目標値が達成されていなくても、中長期的な視座に立ち、今後に向けた good practice があれば、それは評価されてしかるべきであるとする。
- ・ 平成 24 年度から平成 29 年度までは進展がみられたが、その後はほぼ横ばいであり、市の評価は妥当である。

（指標 4）

- ・ 平成 29 年度からほぼ数字が横ばいである理由が分かればなおよいと思われる。

●めざす姿3：仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現し、男女が安心して、いきいきと生活できる社会

【男女が共に自分らしい生き方を選択でき、あらゆる世代においてワーク・ライフ・バランスが実現し、男女が安心して、いきいきと生活できる社会をめざします。】

ご意見欄1：市が示した「評価」に対するご意見

重点課題6 ワーク・ライフ・バランスの実現のための意識づくり							
指標		平成24年度 (策定当初)	平成29年度 (中間)	現状値(最終) (令和5年度)	目標値	評価	評価に関する 市の考え
11	理想の生活と現実の生活が一致している人の割合	17.8% (※1)	39.3% (※2)	43.5% (※3)	50%	B	目標値には達してはいないが平成24年度からは順調に進展しているため
12	家事を男性・女性両方で平等に担っている人の割合	13.5% (※1)	14.9% (※4)	21.2% (※5)	40%	B	目標値には達してはいないが平成24年度からは進展しているため

※1 男女共同参画に関する市民意識・実態調査（平成24年度）
※2 平成29年（2017年）市政世論調査
※3 令和5年（2023年）市政世論調査
※4 男女共同参画に関する市民意識・実態調査（平成29年度）
※5 LINEにより実施した男女共同参画に関するアンケート調査（令和6年6月）

【評価（妥当）に関するご意見】

（指標11）

- 目標値は未達成ということでBでも致し方ない気もするが、平成24年度からの伸びを考えると、【SABCD】という5段階評価であれば、A評価でもよいくらいだと考える。
- 平成24年度から着実に進展し、目標値に近づいているため市の評価は妥当である。

（指標12）

- 平成24年度から大幅に進展しており、市の評価は妥当である。年代により差があると考え。
- LINEによる調査で、30代の回答が多く、70代以上の回答が少ないに関わらず、21.2%という数字は、まだまだと感じる
- ツールやサービス等の利用で「家事」の概念が人によって異なると考える。
- 今後もLINEでの調査も併用し、市民の意見を広くすくい上げていただきたい。

ご意見欄1：市が示した「評価」に対するご意見

重点課題7 男女が共にいきいきと働くための環境の形成								
指標		平成24年度 (策定当初)	平成29年度 (中間)	現状値(最終) (令和5年度)	目標値	評価	評価に関する 市の考え	ご意見 (市の評価は妥当、妥当でないなど)
13	保育施設の待機児童数	—	56人(※1) 平成30年4月	15人(※1) 令和6年4月	0人	B	現状値は15人まで減少してはいるが未だ待機児童がいるため	妥当
14	育児休業制度を利用したかったが できなかった人の割合	13.4% (※2)	12.7% (※3)	10.2% (※4)	5%	B	現状値は目標値には達していないが割合は減少傾向にあるため	妥当
15	介護休業制度を利用したかった できなかった人の割合	12.7% (※2)	8.2% (※3)	8.6% (※4)	5%	B	現状値は目標値には達していないが平成24年度より減少しているため	妥当

※1 当該年度ごとに男女共同参画課が庁内関係所管に調査
※2 男女共同参画に関する市民意識・実態調査（平成24年度）
※3 男女共同参画に関する市民意識・実態調査（平成29年度）
※4 LINEにより実施した男女共同参画に関するアンケート調査（令和6年6月）

【評価（妥当）に関するご意見】
（指標15）

- ・ LINE調査で50代・女性の回答が多いことが、8.6%という数字に影響していると思われる。
- ・ 平成29年度よりかなり解消されており、市の評価は妥当である。施設の希望場所と空き数のマッチングが難しい現状がある。

- ・ 評価基準を表す「進捗」という言葉は「工事の進捗状況」のように「はかどっている」ことを表すと思うので、「進み拡がること」を表す「進展」の方が未来志向を表現できてよいのではないかなと思う。
- ・ 評価は主に、指標の①目標達成の困難性、②社会への影響性・広汎性 ③数値の数位 ④目標値の高さ ⑤目標値との乖離度の観点からなされているように思う。まずこうした前提を示し、それぞれの評価のコメントは書かなくてもよいのではないかなと思う。ただ疑問を生じそうなところについては4「※」などを付けて欄外で簡単に説明する必要はある。
- ・ 先に作成された第4次プランは、第3次プランの評価を受けて作成されるべきものと思っていたので、少々戸惑っている。
- ・ 近年「男女平等」や「多様性」という言葉が急速に普及し、1人歩きしているように思われる。問題は、様々な解釈がなされ、むしろそういった言葉に嫌悪感や疑念を抱いている人も多いということである。そして、それは余計な対立構造を生み出すことで、更なる負の悪循環を招いている。改めて八王子市のめざす「姿」とは何かについて定義し、伝えることがなによりも重要であり、具体的な施策が二の次でよいと思う。誤った解釈を消し去り、根本的に大切なこととはいったい何なのかを今一度強く訴えることで市民のアテンションを一つの方角に向けることこそが最も簡単でかつ大きく社会を変えることのできる方法だと思う。
- ・ 市民を相手に伝える上で重要なのは簡潔にかつインパクトのあるメッセージ性の強いものを作り上げることだと思う。
- ・ 前回の審議会にて、評価は【ABCD】の4段階で行うことが了承されたが、受ける印象が【A】と【B】ではあまりにも大きな隔たりがあるように感じられた。【SABCD】という5段階評価であれば、【A】を付けられる取り組みが多いと感じた。

【審議会議事に関する「男女が共に生きるまち八王子プラン（第3次）」における市の「関係所管による取組状況」へのご意見】

●重点課題1

関係所管が令和5年度に取り組んだことに関するご意見

取組番号	ご 意 見
1	幼稚園、保育所、児童館、学童保育所等職員の男女共同参画についての意識づくりは、子どもの身近にいる大人の言動はとても影響力があるため大切なことであり、公立保育園の取組実績で90.8%の職員ができているとの回答は素晴らしい内容である。できれば児童館、学童保育所の職員についても「性差への先入観による観念や役割分業意識を植え付けないように保育の中で配慮する。」ことを自己評価項目に設定すると子どもに接する際の振り返りに効果的になるのではないかと思います。
2・3	- 一日の生活の多くの時間を過ごす学校生活において、教職員の言動は子どもたちの成長に大きな影響を与えると考えられるため、子どもの頃からの意識啓発が必要な児童・生徒にとって教職員の男女共同参画についての意識啓発の研修等は重要であり引き続き地道に行われることが必要であると考えます。 - 教職員の研修や学校教育の場では、主権者教育と絡めて実施していくことを提案する。主権者教育とは選挙権が18歳に引き下がったことを受け学校教育の中でも必須となったものであるが、主権者と男女平等は切っても切れない関係にあることから一緒に学ぶ必要があると思う。
4	- 託児サービス付きの講座の開催や日曜日、休日の開催等が特に評価できる。 「いちよう塾」へ男女共同参画の理解が広まる講座依頼はとても良い試み。アンコンシャス・バイアスがあり、学校のような他からの学びが入りづらい中高年層への普及に有効だと考える。 - 託児サービス付きの講座を多く開催したり、夜間、土日、休日に開催した講座の受講者を大幅に増やすことができたことは働く男女が講座等に参加しやすい環境の提供となり効果が見られた。「いちよう塾」において加盟校からの男女共同参画に関する理解を深めるための講座の提供が令和3年度に続いての実施がなかったのは残念だが、理由等を各大学にリサーチするなど、依頼する時の工夫も必要ではないかと思う。
5	- 図書館課による「男女共同参画に関する蔵書の充実」は、その文献が適切に活用されない限り、意識の醸成には寄与しないと思われる。 - 配架した文献を用いたセミナーを開催したり、著者によるトークショーを催したり、イベントと一体で行うのが効果的だと思う。 - 男女共同参画推進にそぐわない過去の文献も多々あるように思われる。古典文学などその最たるもので、そういう点に関しても、意識喚起するようなイベントがあったらなお手厚く効果的であると考えます。

取組番号	ご 意 見
6・7	・ 管理職対象の研修は管理職の認識を深め、職場での理解を深めることにつながるため継続が望まれる。 ・ 新規採用職員研修で「男女共同参画基礎研修」を実施することは、これからのすべての職務の土台になる考え方を学ぶことになり、ぜひ時期等工夫しながら継続していただきたい。
8	・ 性別によらない職務分担を推進することで、市以外の民間企業でも推進するきっかけになるため、とても良い試みだと思う。

【重点課題1での取組内容に対する全体的な内容に関するご意見】

- ・ めざす姿を若い方からシニアの方まで意識していただくよい試みだと思う。
- ・ 男女共同参画の認識は進んできているとはいえ、まだまだ男性にも女性にも「主たる稼ぎ手は男性である」といった固定的な性別役割分担意識が残っていることを示す調査結果もある。それ以外にも、無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)の存在により、無意識のうちに、性別による差別・区別が生じることもある。働き方・暮らし方の変革の実現にとって、こうした固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みが大きな障壁となっている。これらは、往々にして幼少の頃から長年にわたり形成されがちであり、幼少期から性別に基づく固定観念を生じさせないことが重要である事からも意識啓発は地道に行われることが必要であり、また社会における慣行や社会構造を今一度見直し変えていく必要がある。
- ・ 個々の事業が単発的な取り組みに終始していないか気になった。つまり、「上位目標に照らして、個々の事業がどれほど目的の達成に寄与したか」という観点から自律的に成果を検証し、今後の施策に反映させていく仕組みの整備も重要であると考え。これにより、個々の取り組みがその範囲に留まることを回避し、(同じ目標の下で展開されている)他の事業と有機的に関連付けられることにより、その成果・効果が全体的な評価へと昇華させられることが期待されるためである。
- ・ 意識の啓発はやはり講座中心になると思うが、働く人が参加しやすいように夜間、土日、休日の開催を今後も拡げていただきたい。
- ・ 講座の形式は書いてないが、座学よりロールプレイが効果的である。
- ・ はじめが肝心といわれるが、採用職員への研修は特に力を入れて実施してほしい。

●重点課題2

関係所管が令和5年度に取り組んだことに関するご意見

取組番号	ご 意 見
9	女性の参画率が50%未満の所管課に対しヒアリングを実施し、選任方法等についての助言を行い、女性の登用について所管課から関係機関等へ働きかけるよう伝えたり、付属機関における公募市民に市民委員制度を活用するなど効果的な取組がされているが、令和5年度における女性の割合は32.9%と目標値から下回っており、職指定などの委員選出方法の見直しや工夫も考え、東京都が令和4年6月から導入しているクォーター制のような積極的な取組を視野に入れつつ目標達成にむけた改善策の検討が必要であると思う。
10	男女共同参画センターでの様々な取組をさらに効果的にするために、センターの認知度を更に高め関心を持ってもらうことが必要である。
11	- 女性への意識改革が必要だと考える。「市職員採用説明会に女性職員を派遣」は評価できるが、昇任選考募集の際にも、女性管理職等のモデルケースの紹介があるとよい。(例えば、女性から見ても、シングルだったり、家庭を犠牲にできる人だったり、配偶者の理解がある人が管理職になると思われがちである。) - 指導的地位に就く女性が増える土壌をつくるために様々な施策を今後も継続していくことが重要である。 - メンター制度も本年度から導入しているとのことだが制度の周知を図り、入庁時より男女ともに管理職になることを期待する職員の人材育成が大事である。
12・13	- 災害対策については、過去の災害時での問題点や課題を踏まえて、男女共同参画をはじめとした多様な視点を活かすため、実際に即した避難所開設・運営に関する防災訓練等を継続して、防災訓練に参加する女性の割合が増えているとのことなので繰り返し実施することが重要である。また、市や民間団体における各種施策や参考となる事例等の情報を収集し、シンポジウムや研修等を通してその普及・浸透を図ることも考えられる。 - 大地震、災害などが多いため優先順位を高くする必要があると思う。

【重点課題2での取組内容に対する全体的な内容に関するご意見】

- ・ 女性がいなかったところにいるようになることはとても有効で意味がある。自分自身が、ほぼ男性のみの会合(商店会、商工 会議所など)の会合に唯一の女性として参加してきた経験から、まずは参加するだけで大きく異なる。そのため、様々なところにまず、女性が参加することからスタートだと思う。
- ・ 男性の中に紅一点ではなかなか意見が出しづらいので、複数の女性が参加できるように勧めるのがよいと思う。
- ・ 組織内においては、これまで男性しか行わなかったことを女性が行うことで、女性にとっては様々なストレスがあると思う。そのため、上席が配慮するなど周囲の対応も検討していただきたい。女性に配慮してよくなったこと、やりやすくなったことは、男性もやりやすくなっているはずなので、男女ともに配慮して物事も行うことを進めてほしい。
- ・ 女性の活躍の重要性に関する様々な場での男性リーダーの理解の促進、また管理職の意識変革を促すとともに女性職員の登用拡大に向けて、研修や多様な職務機会の付与等による積極的・計画的な育成や相談体制の整備、出産・育児期等を迎える前又は出産・育児期等を超えてから前後に将来のキャリアアップに必要とされる重要な職務経験を積ませ、登用につなげるなどの柔軟な人事管理を促進する。市の災害対策本部について、女性職員や男女共同参画担当職員の配置、構成員となる男性職員に対する男女共同参画の視点からの取組に関する理解促進等が図られるように平常時から働きかけを行うことも重要である。
- ・ 女性管理職登用に関しては、既存の<常識>を乗り越えなければ手が挙がりづらく、結果的にいつまでも数字が上がらないという事態が想定される。業務の発展的な整理等、数字には表れにくい取り組みも評価してよいように思われた。
- ・ <町会・自治会のへの女性の参画率について>今後の地域社会を見ていくと、人口減少、高齢化という課題は避けられない。そのような中で、地域でできることは、地域で解決していくという「地域自治」が、市の基本計画である「八王子未来デザイン 2040」の中でも示されている。そのことを思うと、まさに男女が共同して「地域自治」に対応していかなければならない。町会・自治会は、すべてとは言わないが、地域の根幹である団体である。そのリーダーである会長に女性が参画していくことは必要であると思う。とかく保守的なイメージがある町会・自治会に対し、行政が女性参画の推進をおこなう必要があると考える。

●重点課題6

関係所管が令和5年度に取り組んだことに関するご意見

取組番号	ご 意 見
42.43	・ ワーク・ライフ・バランスに関する認識は随分と進展してきているが、意識啓発は地道に行われることが望ましい。
44	・ 公共工事の入札の評価項目に入れたことが面白い。八王子市が男女共同参画に力を入れていることがアピールできてよい。 ・ 性別を問わず生き生きと活躍する企業の紹介は引き続き進めるべきと思う。モデルケースを数多く提示することで、視点が広くなると思う。 ・ ワーク・ライフ・バランスを実現していくためには、市民の理解と共に、企業がワーク・ライフ・バランスの重要性を理解し主体的に労働環境を整えるための取組が重要となるため、市内企業の取組を紹介したり入札に当たっての評価を設けていることは大切で、各課で引き続き取り組んでいただきたい。
45.46	・ 「男女が共に生きるまち八王子プラン」に基づいた取組の周知を今後も継続していくことが必要。 ・ 市職員の育児休業者復帰支援研修はとても大事であり、さらに休業中に希望があればオンライン研修などを受講できる仕組みも検討する必要があるかもしれない。 ・ 「ワーク・ライフ・バランス」の推進には、業務の見直し、効率化等も同時に行わなければ、どこかに無理や歪みが生じかねないと危惧する。そのような取り組みをしているならば、そこは大いに評価してよいと考える。
47.48 49	・ このような施策を継続することにより、特に若い世代の男性の家事・育児・介護に関する意識は抵抗が少ないとの調査結果もありかなり浸透してきてまちで見かける若い世代の家族も当たり前のように子どもと関わっていると感じる。 ・ 様々な活動グループの参加率が少ないとの調査結果もあり、生涯学習活動の講座など引き続き市民に情報が届く手法を工夫しながら継続することが必要だと感じる。 ・ 近隣市の開催講座をホームページに掲載することはとても良い試みである。

【重点課題6での取組内容に対する全体的な内容に関するご意見】

- ・ 大変丁寧にワーク・ライフ・バランスの取り組みを、様々なところに取り組んでいて素晴らしいと思う。
- ・ まずは目標にすべきところはどのようなものか、共通のイメージがもてるとよいと思う。
- ・ ワーク・ライフ・バランスは男女が共に自分らしい生き方を選択でき、あらゆる世代においてワーク・ライフ・バランスが実現し、男女が安心して、いきいきと生活できる社会をめざすものであるから、様々な価値観を大切にするためにも、それぞれの場でのコミュニケーションが必要になってくるのではないか。
- ・ ここでも「個々の取り組みが単発的な実施に終始していないか」が気になった。

●重点課題7

関係所管が令和5年度に取り組んだことに関するご意見

取組番号	ご 意 見
51	・ 町田市・相模原市と締結している病児保育事業の広域連携協定や民間保育所で医療的ケア児を受け入れ開始など体制が整ってきているが、実際には定員が少なかったり、預けるのに手続きが煩雑であったりしてなかなか利用するのは難しい現状があるようなので、更に使いやすい制度を検討していく必要がある。
52・53 54	・ ファミリー・サポート・センターの事業内容が必要な人に届くように、子育てひろばなどで説明会等を実施するのは効果的である。 ・ 親子の安定が図られる制度の充実。 ・ 「学童保育所待機児童ゼロ」達成は働く親にとっては安心して働ける要因となる。
55.56 57.58 59.60	・ 親子集いの場等は乳幼児とその保護者が孤立しないためにもその役割は大きいので、親子に寄り添ったきめ細かい運営が望まれる。 ・ ひとり親家庭に向けた様々な制度が必要な人に届くように情報の発信の仕方をさらに検討する。 ・ 介護に関しては、いざという時困る方が多いので、ここに相談すれば良いという「高齢者あんしん相談センター」などの存在を周知する。 ・ 介護については男女に限らず課題になっている。既婚率も下がっているため、独身の子どもが親の介護をしていることも多く、それは男女を問わない。今後はさらに力を入れるところだと思う。
61.62 63.64	・ 様々な支援制度の情報が行き渡っているとは言えず、必要な人に制度が活用されていないことがある。ここに行けば情報を得られるという「行きやすい場所に情報が集約されている」ことが必要である。

【重点課題7での取組内容に対する全体的な内容に関するご意見】

- ・ 男女ともに働きやすい環境整備に向けて幅広いエリア(子育て～介護)までフォローしており、これを進めることがよいと思う。
- ・ 人生 100 年時代を見据えて、男女が健康な生活を実現し、学び続け、活躍し続けられる環境の整備、仕事と家事・育児・介護が両立できる環境の整備にこれからも取り組む必要がある。また、様々な情報を特に IT が苦手といわれる世代の方に身近な場所で得られるようにすることが必要である。
- ・ ここでも「個々の取り組みが単発的な実施に終始していないか」が気になった。